

マッキントッシュのデザイン

Charles Rennie Mackintosh DESIGNS

チャールズ・レニー・マッキントッシュは1868年スコットランドのグラスゴーに生まれます。マッキントッシュが活動した時代、当時のヨーロッパではアールヌーボーが同時代的に各地で興りましたが、マッキントッシュはこの潮流とは一緒にくれない彼独自のアールヌーボー様式を確立しています。マッキントッシュは一般には「ハイバック・チェア」のデザインで良く知られるところですが、椅子ひとつで彼のイメージを留めておくのは残念なことです。彼は建築家でありました。生活環境の改善、とりわけ生活空間全体を通して人間の豊かさを探究する事に意義を見だしていたことでしょう。ウィリアム・モリスの生涯（1834～1896年）と重ね合わせると、モリスの工芸運動〈アーツ・アンド・クラフツ〉がマッキントッシュにトータルなデザインワーク概念の基軸として引き継がれ、マッキントッシュはこれらに確信を与えられ未知の芸術観を押し進めることができたとおもわれます。「グラスゴー美術学校」「ウインディヒルの家」「ヒルハウス」「ブキャナン通りのテイルーム」「イングラム通りのテイルーム」など、全体のコンセプトから、家具・丁度・照明・ダイニングセットにいたるまで、多くの仕事が綿密に設計され知的な理性の制御によって彼のモチーフが〈美しく調和した=宇宙〉を形作っています。初期のモチーフは動物や植物が独特の曲線のフォルムと線率とをなしアールヌーボーの様式が生み出されています。後期になると直線的な構成によって、後の時代のアール・デコを予感させています。彼が自分のために描いたとおもわれる作品の中に、アーツ・アンド・クラフツ運動の建築家、J.D. ジュディングの次の言葉がありました。「誠意をつくした仕事の誤りには希望があるが外形を気遣うばかりの完成品にはそれがない。1901年 -23歳の記録」 8.5pt ベタ 行送り14pt

チャールズ・レニー・マッキントッシュは1868年スコットランドのグラスゴーに生まれます。マッキントッシュが活動した時代、当時のヨーロッパではアールヌーボーが同時代的に各地で興りましたが、マッキントッシュはこの潮流とは一緒にくれない彼独自のアールヌーボー様式を確立しています。マッキントッシュは一般には「ハイバック・チェア」のデザインで良く知られるところですが、椅子ひとつで彼のイメージを留めておくのは残念なことです。彼は建築家でありました。生活環境の改善、とりわけ生活空間全体を通して人間の豊かさを探究する事に意義を見だしていたことでしょう。ウィリアム・モリスの生涯（1834～1896年）と重ね合わせると、モリスの工芸運動〈アーツ・アンド・クラフツ〉がマッキントッシュにトータルなデザインワーク概念の基軸として引き継がれ、マッキントッシュはこれらに確信を与えられ未知の芸術観を押し進めることができたとおもわれます。「グラスゴー美術学校」「ウインディヒルの家」「ヒルハウス」「ブキャナン通りのテイルーム」「イングラム通りのテイルーム」など、全体のコンセプトから、家具・丁度・照明・ダイニングセットにいたるまで、多くの仕事が綿密に設計され知的な理性の制御によって彼のモチーフが〈美しく調和した=宇宙〉を形作っています。

6ptベタ 行送り10pt

チャールズ・レニー・マッキントッシュは一八六八年スコットランドのグラスゴーに生まれています。マッキントッシュが活動した時代、当時のヨーロッパではアールヌーボーが同時代的に各地で興りましたが、マッキントッシュはこの潮流とは一緒にくれない彼独自のアールヌーボー様式を確立しています。マッキントッシュは一般には「ハイバック・チェア」のデザインで良く知られるところですが、椅子ひとつで彼のイメージを留めておくのは残念なことです。彼は建築家でありました。生活環境の改善、とりわけ生活空間全体を通して人間の豊かさを探究する事に意義を見だしていたことでしょう。ウィリアム・モリスの生涯（一八三四～一八九六年）と重ね合わせると、モリスの工芸運動〈アーツ・アンド・クラフツ〉がマッキントッシュにトータルなデザインワーク概念の基軸として引き継がれ、マッキントッシュはこれらに確信を与えられ未知の芸術観を押し進めることができたとおもわれます。「グラスゴー美術学校」「ウインディヒルの家」「ヒルハウス」「ブキャナン通りのテイルーム」「イングラム通りのテイルーム」など、全体のコンセプトから家具・丁度・照明・ダイニングセットにいたるまで、多くの仕事が綿密に設計され知的な理性の制御によって彼のモチーフが〈美しく調和した=宇宙〉を形作っています。初期のモチーフは動物や植物が独特の曲線のフォルムと線率とをなしアールヌーボーの様式が生み出されています。後期になると直線的な構成によって、後の時代のアール・デコを予感させています。彼が自分のために描いたとおもわれる作品の中に、アーツ・アンド・クラフツ運動の建築家、J・D・ジュディングの次の言葉がありました。「誠意をつくした仕事の誤りには希望があるが外形を気遣うばかりの完成品にはそれがない。一九〇一年―二三歳の記録」

8.5ptベタ 行送り14pt